

3 級

日商簿記検定 模擬試験 問題用紙

TAC 簿記検定講座

第1問 (45点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は各取引の下の勘定科目の中からもっとも適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 商品（本体価格¥400,000）を売り上げ、代金は10%の消費税とともに掛けとした。なお、消費税については税抜方式で記帳する。
ア. 仮受消費税 イ. 売掛金 ウ. 売上 エ. 租税公課 オ. 現金 カ. 仮払消費税
2. 法人税等の中間申告を行い、法人税¥500,000、住民税¥150,000、事業税¥250,000を現金で納付した。
ア. 未払法人税等 イ. 仮払法人税等 ウ. 売掛金 エ. 現金 オ. 当座預金 カ. 租税公課
3. 出張中の従業員から当座預金口座に¥100,000の入金があった。このうち¥40,000については、得意先から注文を受けたさいに受け取った手付金であるが、残額については、詳細は不明である。
ア. 前受金 イ. 当座預金 ウ. 仮受金 エ. 現金 オ. 普通預金 カ. 売上
4. 得意先千葉商事から、前期に貸倒れとして処理した売掛金¥420,000のうち¥140,000が回収され、当座預金口座に振り込まれたが、誤って貸方を売掛金と処理していたことが判明したので、本日これを訂正する。訂正にあたっては、取引記録のすべてを訂正する方法ではなく、記録の誤りのみを部分的に修正する方法によること。
ア. 前受金 イ. 未払金 ウ. 償却債権取立益 エ. 売掛金 オ. 現金 カ. 当座預金
5. 従業員5名が負担すべき生命保険料¥50,000を小切手を振り出して支払った。なお、この生命保険料は当月末において従業員の給料（総額¥1,250,000）から差し引くことにした。
ア. 現金 イ. 従業員立替金 ウ. 当座預金 エ. 貸付金 オ. 保険料 カ. 普通預金
6. 先週末に掛けて仕入れた商品50個（@¥6,000）のうち、本日、5分の1を返品し、代金は掛け代金から控除した。
ア. 仕入 イ. 現金 ウ. 売掛金 エ. 売上 オ. 買掛金 カ. 当座預金
7. 決算日において、現金過不足（現金不足額）¥5,000の原因を調査した結果、通信費¥7,000と受取手数料¥2,000の計上もれが判明した。
ア. 現金過不足 イ. 現金 ウ. 雑損 エ. 雑益 オ. 通信費 カ. 受取手数料
8. オフィス機器¥250,000と事務用の消耗品¥20,000を購入し、代金のうち¥70,000は小切手を振り出して支払い、残額は来月末からの4回払いとした。
ア. 消耗品費 イ. 未収入金 ウ. 当座預金 エ. 未払金 オ. 備品 カ. 現金

9. 車両（×2年4月1日に取得、取得原価¥3,000,000、残存価額はゼロ、耐用年数6年、減価償却方法は定額法、間接法により記帳）を×6年6月30日に¥1,000,000で売却し、売却代金は翌月末日に受け取ることにした。なお、当社の決算日は3月31日である。減価償却費は月割計算によること。

- ア. 未収入金 イ. 減価償却費 ウ. 固定資産売却損 エ. 固定資産売却益 オ. 車両運搬具
カ. 車両運搬具減価償却累計額

10. 山梨商事に商品¥100,000を注文し、手付金として¥40,000を小切手を振り出して渡した。

- ア. 前受金 イ. 前払金 ウ. 当座預金 エ. 仮払金 オ. 未払金 カ. 普通預金

11. 従業員に対する給料の支払いにあたって、給料総額¥580,000のうち、かねて立替払いしていた従業員負担の生命保険料¥15,000と、所得税の源泉徴収分¥87,000を差し引き、残額は現金で支給した。

- ア. 租税公課 イ. 給料 ウ. 所得税預り金 エ. 現金 オ. 当座預金 カ. 従業員立替金

12. 商品¥200,000（税抜価額）を仕入れ、代金は消費税10%を含めて掛けとした。なお、消費税については税抜方式で処理する。

- ア. 仮払消費税 イ. 未払消費税 ウ. 仮受消費税 エ. 仮払金 オ. 買掛金 カ. 仕入

13. 先日、商品¥86,000を掛けで仕入れたが、この取引について借方、貸方とも誤って¥68,000と記帳していた。よって、正しい金額に修正した。

- ア. 売掛金 イ. 仕入 ウ. 売上 エ. 買掛金 オ. 消耗品費 カ. 仮払金

14. 決算において、すでに費用処理されている切手（84円切手）50枚と、はがき（@¥63）20枚が未使用であることが判明したため、適切な勘定に振り替える。

- ア. 普通預金 イ. 現金 ウ. 貯蔵品 エ. 雑損 オ. 通信費 カ. 雑益

15. 以下の納付書にもとづき、普通預金口座から振り込んだ。

領 収 証 書					
科目		本 税	280,000	納期等	×20401
	法人税	〇 〇 税		の区分	×30331
		△ △ 税			
		□ □ 税			
		合 計 額	¥280,000		
住所	東京都××区				
氏名	東京商事株式会社				
				中間 申告	(確定 申告)
				<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> <div style="text-align: center;"> <p>出納印</p> <p>×3.5.29</p> <p>双葉銀行</p> </div> </div>	

- ア. 仮払法人税等 イ. 普通預金 ウ. 当座預金 エ. 繰越利益剰余金 オ. 資本金 カ. 未払法人税等

第2問 (20点)

(1) 当社は取引を記帳するにあたって、主要簿のほかに (A) に示した補助簿を用いている。(B) の取引について、どの補助簿に記入されるか、解答用紙に丸をつけなさい。

(A) 補助簿

- ア. 現金出納帳
- イ. 当座預金出納帳
- ウ. 仕入帳
- エ. 売上帳
- オ. 支払手形記入帳
- カ. 受取手形記入帳
- キ. 商品有高帳
- ク. 仕入先元帳
- ケ. 得意先元帳
- コ. 固定資産台帳

(B) 取引

1. 青森株式会社より商品¥1,000を仕入れ、代金のうち¥800は約束手形を振り出し、残額は掛けとした。
2. 秋田株式会社に商品¥2,000を売り上げ、代金のうち¥1,500は秋田株式会社振出、当社宛の約束手形を受け取り、残額は掛けとした。なお、当社負担の発送運賃¥100を現金で支払った。

(2) 株式会社北川商事と株式会社南野産業は主たる営業活動として衣料品の販売を行っており、それぞれ商品発送時と受取時に掛けにより売上もしくは仕入を計上している。そこで、以下の証ひょうにもとづき、①北川商事が商品を発送した時、②南野産業が商品を受け取った時、③南野産業が代金を振り込んだ時、④北川商事が代金の振り込みを受けた時の仕訳を答えなさい。勘定科目は次の中から選択し、記号で解答すること。

- ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 当座預金 エ. 売掛金 オ. 買掛金 カ. 売上 キ. 受取手数料
ク. 仕入 ケ. 支払手数料 コ. 発送費

請求書

株式会社南野産業 御中

株式会社北川商事

商品	数量	単価	金額
レインコート	8	15,000	¥120,000
送料	—	—	¥ 5,000
合計			¥125,000

お支払期限：4月30日

振込先：東陽銀行浅草橋支店

普通 2233445 株式会社北川商事

当座勘定照合表 (抜粋)

株式会社南野産業 様

西山銀行新宿支店

取引日	摘要	支払金額
4.30	お振込 カ) キタガワシ ヨウジ	125,000
4.30	お振込手数料	300

なお、北川商事は商品を発送したさいに、発送費を現金で支払っているが、この金額を南野産業へ請求している。消費税については無視すること。

第3問 (35点)

次の決算整理事項等にもとづいて、解答用紙の精算表を完成させなさい。ただし、勘定科目の()内は以下の中からもっとも適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

ア. 未収 イ. 未払 ウ. 前受 エ. 前払 オ. 利益 カ. 損失 キ. 益 ク. 損 ケ. 貯蔵品
コ. 租税公課

なお、会計期間は×8年4月1日から×9年3月31日までの1年である。

〔決算整理事項等〕

- (1) 仮受金は全額売掛金の回収額であることが判明した。
- (2) 決算に至り、現金過不足のうち¥5,600は受取手数料の記帳漏れであることが判明した。なお、残額については適当な勘定科目に振り替える。
- (3) 受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法により3%の貸倒引当金を設定する。
- (4) 期末商品棚卸高は¥320,000である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
- (5) 建物および備品に対して、以下の資料にもとづいて定額法により減価償却を行う。
建 物 残存価額：0円 耐用年数：20年
備 品 残存価額：0円 耐用年数：5年
なお、建物のうち¥720,000は×8年12月1日に取得したもので、定額法（残存価額は0円、耐用年数は30年）により減価償却を行う。また、減価償却費は月割りで計上する。
- (6) 通信費のうち¥46,800は未使用の切手代である。
- (7) 借入金は×8年5月1日に借入期間1年、年利率2%の条件で借り入れたもので、利息は元金の返済時に支払うこととしている。なお、当期分の利息は月割計算する。
- (8) 支払保険料は×8年12月1日に向こう6か月分を一括して支払ったものであり、未経過分は前払処理する。